

No 47
30 Apr 2015

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちょう

Bird of Paradise

発行
NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日
平成 27 年 4 月 30 日

編集
NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部
〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-15
シティーマンション赤坂2階 日本ビジネスライン(株)内
Tel:03-5545-5100 Fax:03-3588-0776



堀江先生100歳記念講演会 「わが100年の生涯とパプアニューギニア」

当協会 Toktok 会委員会

4月20日(月)、堀江正夫先生(当協会顧問)の100歳を記念する講演会「わが100年の生涯とパプアニューギニア」が開催され、大変記念すべき行事となりました。これは当協会主催によるパプアニューギニアに関する講演と対話の会合・Toktok会の一環として開かれたものですが、この日、会場となった東京・霞山会館には、日本・パプアニューギニア友好議員連盟の山際大志郎事務局長、泉健太副会長、東部ニューギニア戦友遺族会、外務省、防衛省、その他組織の代表、協会員、学生・青年代表、一般市民の方々等100名近い人々が集まり、予想以上の盛り上がりを見せました。また、遺骨収集その他堀江先生の長年の労苦と日本・パプアニューギニア友好運動の促進・協会活動へのご協力に感謝し、当協会を代表し、村田名誉会長から感謝状、また、同夫人から記念品が贈呈されました。

堀江先生の講演は東部ニューギニアにおける筆舌に尽くしがたい悲惨な戦争の実態、飢えとマラリヤに苦しめられた生活体験等に始まり、戦後現地の人々と

培ってきた友好と信頼の絆、さらに遺骨収集の困難さ等広範囲に及びました。臨場感溢れる語り口と共に、これまで日本政府や国民が必ずしも十分な理解をしてこなかった問題等も浮き彫りにされ、参会者に大きな感銘を与えました。

特に、人知を超える悲惨な戦争といわれたニューギニア戦争の輪郭、実態、現地住民に与えた苦しみ等について日本国民の知っていることはごく僅か、遺骨収集活動がパプアニューギニア現地の人々の好意と協力のもと、少ない予算で戦友・ご遺族の方々を主な担い手に細々と実施されてきている現実等については、参会者の間から驚きの声が上がったほどでした。

日本・パプアニューギニア協会は、今後「アーカイブス委員会」(仮称)も立ち上げ、ニューギニア戦争への国民的理解と遺骨収集を含む諸課題に積極的に取り組み、パプアニューギニアとの友好連帯運動の新たな高みを目指したいと考えています。またご講演後の懇親会にも多数の方が出席され、堀江先生を囲み大いに親交を深めあうことができました。

堀江先生100歳記念講演会 「わが100年の生涯とパプアニューギニア」を聞いて

上島 瑞季（2014年東京国際大学卒業）

第二次世界大戦は歴史の授業をはじめ、道徳や国語の授業など様々な教科で学びましたが、戦地で実際に戦った戦争体験者のお話を伺ったことがなく、「戦争」という時代を現実のことと捉えられず、物語としてしか認識することができませんでした。しかし、実際に生きて帰ってこれないと言われた激戦地のニューギニアで、戦力も弱まるなか、密林の奥で死を覚悟しながら命令に従い、全力で戦い、命を落としていった人が沢山いたという堀江先生の魂のこもったお話を伺って、これはフィクションではなく実話なのだとひしひしと感じました。

その一方で大きな疑問も生まれました。それは先の戦争は今を生きる私たちに何をもちたらし、どういう意味があったのかということです。講演のなかで「安達軍司令官が責任を問われ、自決した」という話も伺いました。戦争で多くの人々が命を落とし、戦争関係者が戦争犯罪で裁かれましたが、戦争を知らない21世紀を生きる私たちにとっては、歴史を繰り返さないためにも戦争という実話を後世に語り継ぐ知識が必要です。

堀江先生も講演や懇談会のなかで、「戦争のことを話させてもらえるだけで嬉しい」とおっしゃっていました。戦後70年、戦争体験者がその体験を語らずに亡くなられる現実があります。私たち戦争を知らない世代は祖父や曾祖父の世代から戦争について十分話を聞かされてこなかったため、二度と戦争を繰り返さないために何ができるのか教えてほしいという気持ちがあります。

今回のように、体験談を沢山聞き、それを一冊の本にまとめ、戦争を知らない私たちの世代からまた次の世代への贈り物にできたらと願っています。こうした努力を行うことがグローバル化時代を生きる私たちの責務であり、先代からのメッセージではないかと思いました。



青梅市で PNG のコラボ！ 「PNG料理店『カフェ・ニューギニ』でイレーネ賀集さんのPNG写真展」 訪 問 記

川口 正義（当協会理事）

イレーネ賀集さんの写真展が「Café Nuigini（カフェ・ニューギニ）」で開催されるということで、2月21日、山下会長以下「日本・パプアニューギニア協会」の有志16名が訪問することになりました。

会場の「カフェ・ニューギニ」は、知る人ぞ知る日本で唯一のPNG料理店ですが、東京都青梅市のお寺（清宝院）の一角にひっそりとその異空間が潜んでいます。



イレーネさんの今回のテーマは「スマティン、パプアニューギニア大学の寮生活」（「スマティン」とはピジン語で「学生」の意味）ピジン語の勉強のために1年間留学されたPNG大学の生活を、身近な題材を中心に写真で表現されました。自ら展示写真の解説や現地での生活のプレゼンをされたところ、流石に関心の高い参加者が多いせいか、活発に質問や意見が飛び交いました。

そしてその後は、ニューギニア料理での懇親会です。メインディッシュはご主人の「Apo Faniufa（アポ・ファニウファ）」こと堀口さんが腕によりをかけて作られた「ムーム料理」釜の中で包まれたバナナの皮から現れたのは、ほくほくのサツマイモやエビイモ、それに柔らかい豚肉の塊。いずれも素材の味が発揮され大変美味しくいただきました。おまけにマギーライスやニューギニアコーヒーまでいただき、しばしPNGを満喫いたしました。以下はアポ（堀口）さんのご紹介です。

2002 年以降毎年 PNG へ通っておられるアポさんは、更に村の一員として9月のゴロカショーへ 10 年以上毎年参加されています。因みに Apo (アポ) という名前は村のリーダーの命名で、Faniufa (ファニウファ) 村のアポで Apo Faniufa とのこと。

「レオナルド・ダ・ヴィンチみたいなものですよ！ (笑)」
「ボクが店やるとしたら売りはパプアニューギニアなので・・・」

2011 年春、知り合いの店を引き継いで始めた「パラダイスカフェ volavola」は、2013 年秋に「カフェ・ニューギニ」としてリニューアルオープン。そのユニークさから、やがてネットやメディアで話題となり (PNG の新聞にも一面記事に!), 絶対数は少ないものの、北は北海道から南は PNG まで様々な場所・ジャンルの人が訪れる店となりました (在日パプアニューギニア大使館の皆さんも御来店されるとのこと)。



お金儲けよりも PNG のカルチャーや人々を誰よりもリスペクトし愛しているアポさん。

「PNG の人たちからピュアな人間の心の強さを知り、素直な気持ちでいる心地よさも学びました。だから店では全ての人に PNG スタイルでおもてなし。食事でもコーヒーもアレンジしないで現地そのまんま。もう日本では感じなくなってしまったあの人の温かさや機械に囲まれた生活の中で失ってしまったヒューマニズム、それがあるのが PNG です。ボクが客寄せパンダになっても構わないから PNG の良さを多くの人に知ってもらえればいい、ただそれだけです」

気まぐれそうに見える自称「PNG ライフ広報担当」ですが、お店は意外と毎日営業です。

<http://www.t-net.ne.jp/paradise/>



アジアの祭典チャリティーバザーに参加して

原 由紀子 (バードオブパラダイス・レディーズクラブ)

今年も、アジア婦人友好会主催のチャリティーバザーが、溜池山王の A N A インターコンチネンタルホテルで賑やかに開催されました。アジア・パシフィックの多くの大使館がお国自慢の料理やスイーツ、珍しい民芸品を販売する、とても華やかで楽しいバザーです。

お昼にはステージ上で、民族舞踊や音楽の演奏、抽選券付きの入場券や福引の当選者発表等々があり、大勢の人で埋まった会場をさらに盛り上げます。美しい民族衣装を身にまとった女性達を見るだけでも心が浮き立つ、そんな時間でもあります。

各ブースの前に立つのは、大使夫人はじめ主に女性職員の方々と、PNG 大使館も毎年美味しいコーヒーや民芸品、手作り品等々をテーブルに所狭しと並べて販売しています。



バザーの売上金は、参加国の恵まれない女性や子供たちの活動資金として活用されています。

私達バードオブパラダイス・レディーズクラブのメンバーは、毎年バザー会場でお手伝いをしています。初代駐 PNG 山口大使夫人が命名して下さったこの会は、PNG 大使夫人の私設応援団の様なものと言えるのでしょうか? かつて PNG に住んでいた、たまたま日本で大使公邸のご近所にお住まいだった等々がご縁で集まっている、いたって緩やかな仲間達。大使館員でもないのにこんな風にバザーに参加しているのは、我々だけかもしれません。

お手伝いしたいな～と思わせる魅力が、ニューギニアの人々にはあるのですね。





ホンダエンジニアリングは2014年設立の橋梁工事・建築工事を主な業務とする建設会社です。日本とPNGの架け橋になれるよう日々努力しております。

当社とPNGの関係は2011年に現地法人クリーン・グリーン・エナジーとの共同事業である「マラペ・ユニティ・ブリッジ」の建設が始まりとなります。橋の設計・施工を自社で行いましたが、それには鋼材・機材の調達、現地での打合せ等多くの方々の協力の下に工事に着手する事が出来るようになりました。特に機材の調達は東日本大震災の影響により難航しました。

2011年12月よりPNGへ渡り、ラエ港よりヘラ州タリ地区へ鋼材・機材の運搬を開始、350t全ての鋼材・機材運搬に約2ヶ月を要し、2月5日に「安全祈願祭」を執り行い、2月8日より杭打ち工事を開始、小さな架け橋の第一歩を踏み出しました。

橋の袂に住居を構える酋長を始め、現地の有志の協力を得て工期3ヶ月でマラペ・ユニティ・ブリッジの完成に至りました。落成セレモニーにはオニール首相、マラペ大臣にも出席して頂きとても盛大なセレモニーとなりました。

地域の安全な通行はもとより、日本とPNGの架け橋の一端になれたように思います。盛大なセレモニーはとても嬉しい事ですが、何よりも地域の方が「これで子供達が安全に川を渡る事が出来る」と涙を流しながら感謝の言葉をいただいた時には「この仕事に携われて良かった」と胸が熱くなる思いでした。まだ一つの小さな架け橋を架けたに過ぎませんが、日本とPNGの友好関係に少しでもお役に立てるよう邁進してまいります。

今後、協会員の皆様にご相談やご協力を乞う事もあるかと思いますが、その際にはご助言・ご協力をよろしくお願い致します。当社では小さな架け橋を架ける事しか出来ませんが、協会員の皆様と手を携える事により大きな架け橋になれると信じております。ホンダエンジニアリング社員一同、日本の技術を持ってPNGの今後の発展のお手伝いが出来ればと考えております。

協会員の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。タリ地区へお立ち寄りの際には是非マラペ・ユニティ・ブリッジを渡ってください。夜間には照明も点きます。

祝

「マイケル トーマス ソマレ」元パプアニューギニア首相 日本政府より春の叙勲決定。

4月29日 昭和の日の日本国政府の発表によりますと「マイケル トーマス ソマレ元首相」に対し「日本・パプアニューギニア間の関係強化及び友好親善に寄与」により旭日大綬章が授与されることとなりました。ソマレ元首相はこのゴールデンウィーク中に受章のため来日の御予定です。詳細はおつてご案内いたします。

事務局からのお知らせ

4月29日にホットなニュースが飛び込んでまいりました！

おめでとうございます。

皆さん、協会は会員の皆さまの会費のみで運営されております。

本年度も何卒よろしくお願い致します。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆法人会員:39社 ◆個人会員:160名 (2015年3月31日現在)

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-15 シティマンション赤坂2階 日本ビジネスライン(株)内
Tel:03-5545-5100 Fax:03-3588-0776 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員5,000円 法人会員50,000円 学生1,000円 PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ